

地域特産種量産放流技術開発事業（抄録） （オニオコゼ）

曾田一志・山田 正

平成7年度から標記の国補事業として、オニオコゼに取り組んだので、以下に概要を報告する。詳細は、『平成7年度地域特産種量産放流技術開発事業 魚類・甲殻類グループ 総合報告書』を参照されたい。

要 約

1. 種苗生産技術開発

1) 親魚と採卵

- ・5年度、6年度に購入した養成親魚からは沈卵しか得られず、7年度に購入した天然魚からしか浮上卵は採卵されなかった。

2) 仔魚飼育

- ・着底魚を11,856尾生産した。生残率は0～9.5%であった。
- ・ナンノクロブシスを飼育水に添加しなかった生産回次は生残率が低下した。

2. 中間育成技術開発

- ・6,500尾（TL40mm、生残率55%）を生産した。
- ・滑走細菌症が発生し、1日当たり20尾から30尾の斃死が続き、生残率を大きく低下させた。

3. 資源添加技術開発

- ・1歳魚放流試験をおこない、2地点に合計23,000尾（TL92.5mm）を放流した。
- ・買い上げ調査による混獲率は2.9%（調査尾数70尾）であった。

4. 資源生態調査

- ・稚魚ネットによるオニオコゼ稚仔魚調査を行い、沿岸の水深30m付近から浮遊仔魚3個体と着底近い仔魚を採集した。